

第91回相模原地域メーデーメッセージ



第91回相模原地域メーデー開催にあたり、実行委員会を代表してごあいさつ申し上げます。

メーデー（May Day）は、1886年5月1日にアメリカの労働者たちが大規模なストライキを起こしたことが起源とされており、1890年5月1日に第1回国際メーデーが開催され、日本では1920年5月2日に第1回メーデーが開催され今年がちょうど100年目です。

戦時中（1936年～45年）の混乱期には開催されなかったのが今回が第91回目となりますが、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため連合神奈川の方針に基づき集会形式での開催は行わず、インターネット会場を開設する形式に変更して実施することとなりました。ご了承ください。

私たち労働者を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染拡大で情勢が一変し、労働者として働きたくても満足に働けない状況が続いています。まずもって、感染拡大防止の第一線で業務にあたる医療従事者や行政機関で働く皆様が、自らの感染リスクを顧みず献身的な活動をしています。改めて敬意と心からの感謝を表させていただきます。

私たちの生活を守るためには一日も早い事態の収束が必要で、感染者を見つけ治療する受け身の対応だけでは感染拡大は防げません。感染拡大防止には私達一人ひとりの意識と行動が重要で、対策の一つである「ソーシャルディスタンス」（人と人との物理的距離を保つこと）が大きな鍵を握っていると思います。生活の糧を得るために労働は重要な要素ですが、健康なくして労働はできず、生活の維持が困難になります。皆さんも現在の危機を十分に理解し、各々様々な課題があり、相当の痛みを伴うことが考えられますが、みんなが知恵を出し協力しあい、私たちが「ワンチーム」となって対応できた時に、必ずやこの難局を乗り越えられると信じています。

しかし、この難局を乗り越えるには、直面する危機をしっかりと発信し、国政・行政にその対策をタイムリーに打ち出してもらうことが必要です。毎月きっちり納税している労働者・勤労者が大変な苦難に直面している今こそ、国・行政の最大限のサポートが求められており、その責任は重大だと考えます。

私たちは議員・政党や関係機関と連携して、国政・行政に強く要請して参りますので、皆様もししっかりと意思表示を頂き、私たちにとってより良い社会の実現にご協力をお願いします。

一方、新型コロナウイルスの収束後を見据えた取組も重要です。

私たちが住み、働く相模原市は「内陸型工業都市」として「モノづくり産業」を中心に発展し、近年は圏央道の開通など交通網の充実により「広域物流拠点」として注目され、これからも「リニア中央新幹線」開通により、首都圏・中京圏・近畿圏の三大都市圏が一つの巨大経済圏となり、新たなイノベーションが起ることが予想されます。

一方で少子高齢社会となり「生産年齢人口」の減少が進行する中、これからも相模原市が「持続可能な都市」として、人にも、企業にも選ばれる街づくりを推進しなくてはなりません。

相模原市の更なる発展と労働者に優しい街になるように、私たちが組織内議員と連携して労働者の声を発信して参ります。是非皆様からも力強いご支援ご協力をお願いいたします。

結びとなりますが、メーデーは労働者の地位や労働条件の向上、権利拡大をはじめ、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の希求に深く貢献すると共に、働く仲間とお互いをねぎらいたたえ合う場として実施してきました。皆様も「労働とは何か？」を改めて考える機会にいただければと思います。

そして、メインスローガンに掲げる「平和・人権を守り、持続可能な社会をめざし、働く仲間の笑顔あふれる未来をつくろう!」、そして、連合が目指す「働くことを軸とする安心社会～まもる・つなぐ・創り出す～」の実現に向けて私たちは取り組んで参りますので、皆様からのご支援ご協力をお願い申し上げます。第91回相模原地域メーデー開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

第91回相模原地域メーデー
実行委員長 川崎 晴彦